

2012年1月

マナ通信

御言葉を通して主にある交わり

3年間で、旧約1回、新約2回通読する。毎月、旧約と新約を半分づつバランスよく読んでいく。

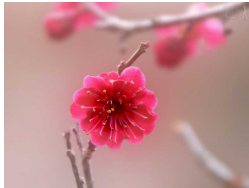
ディボーションとは、神の前に静まって、聖書を読み、黙想し、祈ること。神とのコミュニケーション



今日は11月の聖書通読(雅歌・イザヤ書・ロマ書・コリント第1)の感想です



キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださいました。」(ロマ15:7) 決して私たちの側に受け入れられるに値することがあるわけではありません。私たちは罪があるにもかかわらず、全くの恵みにより、主イエスに受け入れられました。人に生きる力を与え、本当の喜びと平和の中を生きるようにさせる望みは、イエス・キリストを自分の救い主と信じる信仰以外にありません。神様は私たちが主イエスにつながり続けることができるように聖霊を送って下さいます。神様はこの聖霊の力によって、私たちを本当の望みにあふれさせて下さるのです。「どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせて下さいますように。」(ロマ15:13) (T.H)



ローマ人への手紙の中で多くのことを教えられてきました。更に一步一步、主からの教育を受ける予感を感じさせられる月だったと思います。「なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです。ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。」(ロマ11:32-33) (S.T)

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。」(Iコリ2:14)

人間の霊(良心・神との交わり・霊覚の機能を持つ)と神の御霊とは全く違います。神が人間を愛してくれるのは神の御霊によるものであって人間の知恵では解りません。十字架の罪の贖いを信じることは人間が持つ知恵では理解できないのです。当然思いつくことも出来ません。ところが、人間の想定外のことが神には出来るのです。全知全能の神たるゆえんです。イエスが死に着く時、すべての人間の罪を両肩に背負い、胸に抱きかかえて、罪の贖いをしてくれたことを、御霊を通して我々は初めて教えられて知ることが出来るのです。その結果、神の御霊が人間の霊をノックし、神の恵みに導かれるのです。「御霊を受けている人は、すべてのことをわかまえますが、自分はだれによってもわかまえません。」(Iコリ2:15) (N.H)

神様はイエス・キリストを通して無条件で無限の愛を示してくださいました。パウロはローマのクリスチャンに「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。」(ロマ12:10) と言いました。本物の愛の中に生きること、それはキリストを生きること。

「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。」(ロマ12:12)「互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思てはいけません。」(ロマ12:16)「わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」(マタイ5:44) 謙遜でありたいと願わされます。(S.H)

私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。」(Iコリ1:4)「神はひとり子をたもうほどに私たちを愛して下さる」(聖歌392)。良い事を行ったから義人となれたのではなく、キリストの贖いを信じるだけで義人とされた。私の思いでなく、神の御旨であり、神の愛に感謝します。

日々の暮らしの中で、不安で暗い時もありますが、兄弟姉妹と一つ心で、御言葉を学び、賛美し、祈りの中で、神の言葉の約束を思い起こし、(御霊によって)神様を受け入れていく。また、感謝の心で歩むことは、生活の助けをもたらして下さることを覚えて、教会生活を歩んで行きたいと思います。(M.T)

所沢の保健センターで毎週木曜日に「サロン」と呼ばれる集まりが開催されています。先だって、サロンで讃美歌を持った女性が目にとまり声をかけました。その女性はプロテスタントで、幼い頃からのクリスチャンでした。話し方やしぐさが穏やかでとても惹かれました。いつの間にか神様の話になっており、来週からもっと神様の話をしたい衝動に駆られました。意気投合して来週から少しずつ聖書の勉強をしようということになり、創世記から始めることにしました。

11月24日初めての聖書の勉強会を2名加わって4名で行いました。創世記の1章1～4節まででしたが、脱線も多く楽しい勉強会となりました。これも、これまで集会で聖書を学んだりマナを読んでいたため、クリスチャンの友達と神様が引き合わせてくれたものと思います。感謝します。(C.H)

賛美の広がりこそ宣教の目的、主の命じられたようにたくさんの賛美歌を大きな声で歌いたいと思えます。自己中心の罪から解放されるとわかってるのにどうして、サッとキリストを着ることができないのだろうか。クリスマスを心から祝いたいです。(M.O)

2月の1ヶ月間、主に試され導かれた中で、自分の視野はなんて狭いのだろうと思われました。イザヤの預言は、私たちの視野を広げるものであると、15日のメッセージを聴こうに書かれてありました。神の救いのご計画の全体像から私たちを見れば、すべてが益であると分かります。いつも主から目を離さずに、主と共に歩ませていただきたいと願います。(T.T)



そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その 私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。」(ロマ 7:21) 自力で守ることのできない律法によって救われるのではなく、ただ神の恵みによって救われることに感謝します。

「…よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていただくのです。」(ロマ8:34) こうしている今も、イエス様が天の父なる神様と共におられ、その右の座で私のためにとりなして下さっている、なんてうれしいことなんだろうと思います。その素晴らしさをいつもいつも感じていたいと思いました。(R.N)



10・11月の特集「献身の召命を受けるとき」イソベル・クーンさんの中国の少数民族リス族への伝道。そこに至るまでが記されていました。様々な障害や問題にぶつかりながら不思議な導きによって道が開ける。比較的短い時間に道を見いだせる時もあるればどうにもならない状況まで追い込まれ、ついに！というように様々。イソベルさんの伝道に対する強い願いが神様の御心にかなったとき、既にその道は開かれていたということでしょう。だからといって全てがトントン拍子に上手くいくわけではなく、道が開けるまでの長い時間の中で信仰を試されることもあったでしょう。読むだけで(特に後半)疲労感を覚えてしまうほどでしたが、同時に私たちの願いや祈りが主の御心と同じであつたらこれほど祝福されるのかと感動しました。そして、全てのことには「(神様の)時」があることも改めて思いました。(C.K)

何回も何回も繰り返して、主にのみ頼れただけ信仰によって、立つように言われています。わかっている、気が付くと主ではなく、人の優しさや、人脈や、お金など、目に見えるものに、頼っている自分を発見します。クリスチャンはこうあるべきという型に自分をはめ込もうとしていました。不純な信仰だったと振り返っています。マナを少しずつ読み進めていくことで、いつも主に向かうように修正できるので励みになります。(H.H)

信仰から出ていないことは、みな罪です。」(ロマ14:23) 御言葉は明快です。自分を複雑にして御言葉を曖昧にしてはならないと思いました。人との関わりの中で、自分の感覚が言えなくて相手に合わせて平和を装うのですが、心では同意できなくて苦しく思う時があります。ありのままの自分で主に祈るばかりです。

心底の動機と自分の傲慢さ、こだわりがあることなどが見えてきて、悔い改め、ゆだねることをうながされて、心が安らかにされます。自分はすぐに高ぶる者で、主の御心からそらされてしまいやすいことを繰り返し教えられています。(M.F)

喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」(ロマ12:15) 学校でいろいろな訓練に遭って苦しみ悩む娘に、最初はいろいろな言葉で励まそうとしていた。しかし、悲しむ心に力を与えようとする言葉はむしろ逆効果であった。そんな時、この御言葉を思い出した。そして、言ってみた。「大変だね。つらいよね…。」すると、娘の表情が少し楽になったのがわかった。どんなに素晴らしい言葉でも愛によって共感する心がなければ伝わらないことを知った。

どんな相手でも自分の心にぬくもりを灯して声をかけると、相手も必ず同じぬくもりを返してくれる。御言葉によって歩む喜びを感じています。そして、もっと主の愛が見えるようになりたいと願う毎日です。(N.T)

キリスト者になって約3年後、私は暗礁に乗り上げてしまいました。十字架の主イエスを見上げる時、そこに神の愛と罪の赦しを見て、平安があり感謝があります。ところが、自分を見る時、御言葉に従っていない生活を見てがっかりするのです。自分では神の御心に従って生きたいと願っているのに、全く反対のことをしてしまう自分に悩むのです。そのような時、ロマ7章8～25節は慰めてでした。しかし、私はいつまでも第7章の堂々巡りです。どうしたら、そこから抜け出せるのだろうか。どうしたら、聖いクリスチャン生活を送ることが出来るのだろうかと追求が始まりました。聖化の恵みにあずかりたいと、あの本、この本と読みあさりしました。多くの教会の集会にも出席しました。そして遂に、第6章で発見がありました。古い自分の死の発見です。罪からの解放のために、神がキリストにあって成し遂げて下さった十字架の御業を見ました。自分ではどうすることも出来ない原罪を持った古い自分を、神は十字架のキリストにあって、キリストと共に死に渡されていたという事実です。これは大発見でした。クリスチャン生活は肉の自分を改善することではなく、新しいいのちによるものだと分かりました。

そして更なる大発見は第8章です。神の御心を成し遂げて下さる御霊の内住です。第7章の「出来ない私」に代わって、「出来る御霊」です。御霊を通して主との人格的な交わりを保っている限り、第7章の葛藤はなくなります。どんな暗礁も豊かな満ち潮があれば乗り越えられます。これは大発見でした。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ロマ8:1-2)

「罪と死の原理(法則)」とは何でしょうか。それは私たち墮落したすべての者に内在する罪の力です(7:20)。この地球上に住む私たちには万有引力の原理(法則)があり、どんなに高くジャンプしても、地上に引き戻されてしまいます。同様に、私たち「罪と死の原理」を持っている者は、どんなに神の御心に従おうと努力しても、罪の力に引きずり落とされます。どこに住んでも変わりません。私たちの願いに反して、私たちを罪の奴隷にしてしまうのです。

しかし幸いなことに、キリスト者の内には、「罪と死の原理」だけでなく「いのちの御霊の原理(法則)」があるのです。何と感謝なことでしょう。どんなに引力が強くとも、電磁エネルギーの原理(法則)によって作動するエレベーターやエスカレーターは、人を地上から天高く上へと持ち上げることが出来ます。同様に、いかに罪の力が強くとも「いのちの御霊」は、主に依り頼む私たちにいのちを与え、力を与え、神の御心に従う生活を送らせて下さるのです。

秘訣は、絶えざる祈り、主との人格的な交わりに生きること、御霊の導きに敏感に従うことにあります。これは電動モーターのスイッチのようです。スイッチが切れていては何も出来ません。ディボーションを通し、心を主に向け、幼子のように主に依り頼む、スイッチオンの生活を送らせていただきましょう。(I.F)



貴重な感想をお寄せいただきありがとうございました。今回は12月の一言感想になりますが、1月10日頃までに送っていただけると幸いです。送り先は、E-mail : info@fukuint.holy.jp /電話・FAX : 04-2943-0153 (福島) まで。